

東葉警備保障株式会社

URL http://toyo-security.jp

発行日 2022年1月末日

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。 ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、 経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に 考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

コロナ禍と当社の業績

国内でのワクチン接種が一巡し、昨年末にかけて一時収束に向かいはじめたと思わせる感染者数の激減、ぶりに安堵したのも束の間、直近では第5波を上回る過去最高を更新する地域が増えてきました。年明け以降の日経平均株価が急落しており明るい話題は皆無といった情勢です。

そうした中で、当社が位置する警備業界は競争激化が進むものの、全般底堅くあります。警備業界の発展は世の中の不安から来る安全意識の高まりを追い風に出来ることで地味ながら需要が絶えることはありません。

新型コロナの流行で外食業界が長期休業に追い込まれる一方で、警備業界は東京オリンピック関連施設と宿泊施設の警備需要が盛り上がり、その後はワクチン接種会場警備の引き合いが活発化するなど業績はコロナ以前を上回る会社が多いのです。

当社についても前述した事業環境を的確に捉え、コロナ禍にあっても過去最高額の冬季賞与を社員に支給することが出来ました。盛夏のさなかに開催された東京オリンピックでは猛暑にめげず、コロナ会場警備では社会的要請にこたえる使命感をもって仕事に従事してくれました。

当社の経営理念である「安全・安心・満足の真心のサービスを提供することで地域社会に貢献する」を実践できる社員を一人でも多くすることが私の仕事と気を引き締めて2022年を迎えております。



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。ひとりでも多くの若い力を大切に育て上げたい。会社を通して彼らの人間形成の役に立ちたいと存じます。ぜひとも、大切な生徒様の進路検討に当社を加えてください。

本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

月報 第45号**マクラフリカ**

`**```**

東葉警備保障株式会社

URL http://toyo-security.jp

発行日 2022年4月末日

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。 ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、 経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に 考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

君はなぜ勉強するのか?

先生方は教員生活を送られてきた中で生徒から「勉強なんか実社会で役に立たない」「なぜ将来(仕事)につながらない教科を学ぶのか」といった疑問をぶつけられたことはなかったでしょうか。私自身の学生時代を思い返しても、それに近い感情で勉学と接してきた時がありました。

表題の「君はなぜ勉強するのか?」を生徒に問うならば、その解として「人はなぜ勉強すべきなのか?」「勉強している人と勉強していない人について」語れなければなりません。

新入社員時代を経て、企業内で責任ある役職を経験していくうちに、仕事に必要なあらゆる物事が学生時代の教材に散りばめられた粒子の集約で合理的に説明、理解できることに驚かされます。時に、数学的な考察、歴史上の人物の決断、古典漢文で出会った感性と人の道に教えられ、助けられるのです。

太宰治の「正義と微笑」の一節が勉強のすばらしさについて教えてくれています。「日常の生活に直接役に立たないような勉強こそ、将来、君たちの人格を完成させるのだ。(略)覚えるということが大事なのではなくて、大事なのはカルチベートされるということなんだ。」カルチベートとは「耕す、磨く、高める、洗練する」の意です。

本文の「勉強」という言葉を「仕事」に置き換えてみましょう。今度は経営者が解を提示できなければいけません。先生も経営者も、勉強に終わりはありません。



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。ひとりでも多くの若い力を大切に育て上げたい。会社を通して彼らの人間形成の役に立ちたいと存じます。ぜひとも、大切な生徒様の進路検討に当社を加えてください。

新年度も、東葉警備保障株式会社をどうぞよろしくお願い申し上げます。

月報 第46号**マクラフリカ**

東葉警備保障株式会社

URL http://toyo-security.jp

発行日 2022年7月吉日

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。 ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、 経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に 考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。



「悪い円安」は本当なのか

6月の半ば、ドル/円相場が一時135円前半まで売り込まれ24年ぶりの円安水準をつけました。 昨年大晦日に115円前後だったところから半年で約20円の円安です。米国内の物価上昇は 凄まじく、コロナ危機回避の為には「何でもあり」とも映る相次ぐ景気対策の結果、過度な流動 性を生み、FRBがその後始末に追われ金利引上げ誘導です。

一方、日本国内では日銀による金融緩和継続のアナウンスが鳴り響く状況なので円安は当然の流れです。

このところの円安を取り上げて「悪い円安」論が賑やかです。ドル決済の資源・燃料は円流出を加速させ対外収支は赤字国に転落、それを投機筋に円売り材料として囃され円安サイクルの出来上がりです。

かつて海外市場を席捲した輸出強者の国際優良企業が日本にはゴロゴロありました。日本企業が世界中で勝ち過ぎた結果、対日制裁的な円高誘導が仕掛けられ1ドル・75円となったとき、日の丸製造業の命運は尽きました。

今や悲しいかな、日本企業の競争力復活を危惧する円安警戒論はどこからも聞こえてきません。円安は輸入物価を押し上げるので、相対的に国産品の価格競争力が回復します。日本経済にとっては「悪い円安」よりはるかに「良い円安」が優位にあるのです。これは元寇以来の神風かもしれません。



当社では毎年、多くの高卒生を迎え入れております。ひとりで も多くの若い力を大切に育て上げたい。会社を通して彼らの 人間形成の役に立ちたいと存じます。ぜひとも、大切な生徒 様の進路検討に当社を加えてください。

新年度も、東葉警備保障株式会社をどうぞよろしくお願い申し上げます。

月報 第47号 **マクラフリカ**

東葉警備保障株式会社

URL http://toyo-security.jp
発行日 2022年9月吉日

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。 ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、 経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に 考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

安倍銃撃事件の教訓

総理大臣経験者が選挙演説中に手製銃により銃撃され死亡する事件が起きました。「水と安全はタダ」と言われてきた日本で、すでに飲み水は買うものとして定着しましたが、安全に関しては「まだまだ大丈夫」と高を括ってきた感があります。

まず日本では銃犯罪はないとする「油断」です。昭和のヤクザ映画や刑事ドラマによくある街中の銃撃戦を一般市民ならばフィクションの世界の話と思い込んでも許されますが、当の政治家も警護担当者もその程度の認識であったことが問題です。

もう一つは「もしもの時の備えがない」ことです。元総理を取り囲むように警護が突っ立っていたものの、銃撃であれ、ナイフであれ、投石、暴力行為であれ、負傷者が出たときの備えが皆無でした。今回の事態では最悪を織り込んだ準備は全く出来ていませんでした。

今回の銃撃事件の結末を「平和ボケ」などと結論づけては得られるものはありません。日本周辺で騒がしい安全保障の場面において、前述の「油断」「もしもの時の備えがない」状況が存在しないのか心配でなりません。

命を狙われる存在だ、と緊張することのない者と、命の危険と隣り合わせの緊張の中で権力 闘争を〈〈り抜けてきた指導者が同じテーブルで外交交渉をする現実の厳しさを考えれば、生 ぬる〈も厳しいこの国の現実を感じずにはいられません。



毎号、「マケテタマルカ」をご精読いただきありがとうございます。 当社では毎年たくさんの高卒生を迎え入れております。ひとり でも多くの若い力を大切に育て上げたい。会社を通じて彼ら、 彼女らの人間形成の役に立ちたいと存じます。ぜひとも、生 徒様に当社のことをご紹介ください。

月報 第48号**マクラマルカ**

東葉警備保障株式会社

URL http://toyo-security.jp 発行日 2022年12月吉日

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。 ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、 経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に 考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

教育現場でDXはすすむのか

2021年9月にデジタル庁が発足してから1年余が経過しました。直近の内閣改造でデジタル大臣に与党 実力者が配され、「役所への申請書類にフロッピーディスクなどの個別記録媒体を指定する規定(いわゆるアナログ規制)」の見直しを打ち出してから官庁のDXへの対応力欠如が表面化しました。

かつて世界の先端技術を経済社会にいち早く実装し、その成果を小型化・高機能化、価格競争力に 反映することで世界市場を席巻し、経済成長を謳歌してきたのが日本でした。日本の行政機構がレガ シーシステムからの脱却を拒みつづけてきた結果、新型コロナ対応では新規感染者数の把握すらでき ない、目も当てられない惨状を世界にさらけ出したのです。

私達が失われた30年以前に「発展途上国」「後進国」と格下に見て来た中国・韓国・台湾勢やASEAN諸国の追い上げに窮し、経済成長率のみならずハイテク製品でも主導権を握られ、今や部品・部材・素材といったパーツ下請け企業が大半になってしまいました。まさに「買いたい・売りたい」の立場逆転です。

この原因は何なのでしょうか。身の回りにあるハードの性能差ではありません。ソフトを操り、物事の最短ルートをイメージし、使用可能な情報をすばや〈収集し、最適な解決方法にたどり着〈スピード勝負に慣れていないのです。この勝負に勝てる人材を多〈抱える国が次世代の勝者になります。

現在の教育現場にこの現実に抗えるだけの気力があるでしょうか?あらゆることが昭和からの受け売りのままではないでしょうか。江戸時代からの「読み・書き・そろばん」が明治・大正・昭和では日本の優位性に有効に働きました。平成・令和の世で「読み・書き・そろばん」に代わるものは「デジタル技術への順応度」でしょう。学校教育もこの時流に対応しなくてはいけません。



毎号、「マケテタマルカ」をご精読いただきありがとうございます。 年明け以降も新卒生採用を継続します。今後とも当社をよろ しくお願い申し上げます。